

アドヴァイザーとの意見交換会 まとめ

- 1 日 時 平成18年10月22日(日) 午前10時~11時30分
- 2 会 場 ながおか市民センター202・203会議室
- 3 参加者 40名(一般30名、アドヴァイザー2名、長岡市国際文化課2名、事務局6名)
- 4 意見交換会の要旨

(1) アドヴァイザーの自己紹介と就任にあたり一言

[衛 紀生 演劇アドヴァイザー]

初めてリリックホールを訪れたのは、開館当初に行われた「文化経済学会」でした。

そして、ここ2年ばかり、リリックホールを隅々まで見せてもらっています。これはすごい劇場だと思っています。しかし、潜在的な力を持っている劇場であるということと、現在そうであるかは別です。

リリックホール、そして財団が設立され10年が過ぎましたが、その間、新潟の「りゅーとぴあ」や「小出郷文化会館」はユニークな運営で、それぞれが全国区として名を馳せてきました。では、リリックホールの10年間はどうかだったのでしょうか？ハードに潜在的に魅力があるだけに、いろいろな意味で、まだ、間に合うと思います。個性的な取り組みを行うことは、金沢市民芸術村のように全国から年間多くの視察がやってきて、職員が仕事にならない例もありますが、補助金や協賛金を集めるためには非常に有利になります。そして、これは、皆さんの事業にも反映していけるということです。財団はこの10年間、粛々と事業を行ってきましたが、まだ、リリックホールの潜在的な能力を引き出しきっていないと思います。

伊東豊雄氏の作品の出発点がこのリリックホールで、その良さが非常によく出ていると思います。非常にコンパクトで、コンサートホールもシアターも使いやすいし、聴きやすく、観やすい。収容人員を考えると、利益を上げることは絶望的ではあるけれど、それは費用(コスト)ではなく、市民の文化振興に対する地域への投資と考えるべきです。国内の多くのホールや海外の200館近くのホールを見てきましたが、リリックホールは建物の規模こそ小さいけど、潜在的なハードの持っている能力は、おそらく10本の指に入っていると思います。

この潜在能力を引き出すひとつとして、リリックホールはドアチケット制度であることが挙げられます。つまり、ホールの入口でチケットをもぎってもらって入場すると、すぐにそこがホールの空間であるということです。これは欧米型の造りで、ホワイエを自由に使い、無駄な空間が無いということです。日本では他にあまりありません。

また、スタッフやキャストが楽屋から出て溜まっている場所を「グリーンルーム」といいますが、外光の入る「グリーンルーム」は日本では稀で、とても素晴らしいと思います。

さらに、練習室が多く、ホールやシアターの楽屋も整い、見事に合理的にできています。演劇のことはもちろんですが、これらの施設をよりうまく使えないかも考えています。

私は、事務局に対して「施設管理はしないで欲しい」と常々言っております。指定管理者制度が導入されましたが、東京で指定管理者となっている民間大手の人たちに話を聞くと、次の切り替えの3年や5年後が勝負であるといっています。彼らは10館を超える指定管理者となって、売上は伸びたかもしれませんが、利益はあがりません。切り替えの時には全面撤退か、逆にスケールメリットでもっと全国的なネットワーク化を図り、興行を本社で一括購入して回すといった両極が考えられます。新潟から北陸に移動するには都合の良いリリックホールは、施設の良さやロケーションなど様々な要素から、当然狙ってくると

思っています。だから、施設に関しても、施設経営というマネジメントの概念を持ち込んで欲しいのです。マネジメントということは、新しい価値を創っていくことで、今のことを守ることはありません。

事業に関していえば、演劇の根はまだまだ張ってはいません。今後、もうちょっと長岡に拠った作品をやりたいと思っています。例えば、ソントン・ワイルダーの「わが町」を「わが町長岡」に書き換えて、市民の皆さんと一緒に創れないかと考えています。「長岡、一体何なんだろう？」と、長岡という町を調べる過程も大切にしたいと思います。

ホールは、音楽や演劇愛好者だけのための施設であってはいけません。施設を利用される皆さんが文化サービスの「受益者」ではなく、むしろ「供給者」となっていたくためにも、演劇に関しては指導者養成講座をやりたいと思っています。子どもや障害者、高齢者のコミュニティーづくりのためのワークショップを進める人材を育成したいと考えています。もちろん、すぐにはできないことで、金沢では5年かかりました。しかし、これはそんなにお金のかかることはありません。あくまで、「住みたいまち」「住んでみたいまち」という長岡に投資することです。幸い長岡には大変良い施設があります。リリックホールを皆さんと一緒に「しゃぶり尽くしていきたい」と思います。

[船橋洋介 音楽アドバイザー]

長岡とは、15年余り音楽を通じて交流をさせていただいています。

指揮者として、一人の音楽に携わる者としてできることは、「このまちで良い音楽をすること」に尽きると思います。こういった皆さんとお付き合ひの広がりとか、出会いを大事にしていく中から、財団と市民の皆さん、それぞれの音楽団体や演劇団体など、相互の繋がりを模索していきたいと思います。

例えば、市内にはたくさんの合唱団がありますが、今回11月に市制100周年の演奏会をご一緒させていただきます。コンセプトとしては、それぞれ団体の枠をはずして、個人と個人が同じ視点で一つの作品を大事に見つめていただくことにより、それぞれの持ち味をお互い紹介しあうなど、長岡の音楽的な裾野を広げていくことにあると思います。

私は音楽が専門ですが、演劇やバレエ、舞踊、美術などとのコラボレーションなど、いろいろな広がりを持って、市立劇場とリリックホールの二つの大きな大切な建物に集まる皆さんと創っていけるのではないかと考えています。

財団はこれまで10年間、活動をやってこられました。また、三善先生が「みんなのホール」とおっしゃられていて、それはとても大きな枠のひとつで、いろんな多様性を持った一つの言葉だと思います。やはり、ここには人と人とのコミュニケーションが原点にあって、言葉だけではなく、人がたくさん集まるということを見ると、いろいろなことができると夢が膨らんでいきます。

もう一つ大事にしていきたいのが、小さな時から自然に脚を運ぶ、親しみやすいホールであることです。良い演奏会で、良い技術に触れるところから、次に繋げていきたいと考えています。例えば、小学生がオーケストラの演奏を聴けるなど、「小さな頃から良い音楽に触れる機会の多いまち」を実現したいと考えています。

財団ができることとしては、多くの市民の皆さんに音楽を楽しんでいただくことと同時に、高い芸術性を持ったクオリティの高いものを紹介していくことです。

市民の皆さんに、小さな時、若い時から良い音楽に触れていただき、裾野を広げていくお手伝いできれば、うれしく思います。

(2) 意見交換

衛アドバイザー

本日お集まりの皆さんは、市立劇場やリリックホールを利用されている方も多いようですので、いろいろご意見などをお持ちかと思えます。

私たち2人のアドバイザーは、財団の人間ではありません。そういう意味では、インターフェイスとでもいうのでしょうか。財団にも、市民の皆さんにも「物申す」という、中間に立って、良く言えばきちんと通訳をするという、悪く言えば間でウロウロしているという立場です。今日は忌憚のないご発言をお願いいたします。

参加者

リリックホールの構想当初から関わってきましたが、練習会場が欲しいということと、音響の良いホールが欲しいということを書いてきました。今になってみると、もう一つ大きな練習場が欲しいと感じています。

スタジオは24時間利用できるというコンセプトではありましたが、管理面なども含めて考えると、時間を切ることも必要だと思います。いずれにしても、市民の活動場所が確保できることは大切であると考えています。

衛アドバイザー

確かに練習スタジオの数は多いと思いますが、第1スタジオ規模の広さの部屋が複数必要だとも感じています。これから私たち2人が関わっていくと、自主制作公演などが増えていくと思います。私たちの使命は、自ら創ることをやっていくことだと考えています。文化庁や(財)地域創造なども、自主制作事業を非常に重要視しています。そうすると、スタジオやホールの2 - 3週間の専有化もこれからは考えられません。

音楽、例えば合唱にしても何にしても、拠点としているホールで音を創っていくことは非常に大事です。「練習」時の照明などは、ステージ上だけで良いんです。そして、ホールを「練習」に利用しやすいような、「料金体系」にしたら良いと思います。

私もスタジオの24時間は必要ないと思います。ただ、退出後に外でミーティングしている人もいるので、退出時間をもう少し延ばすことはできるのではないかと思います。

そのために、受付の警備員や光熱水費など、使っていただければ使っていただくほど、実はお金がかかるんです。でも、このことは先ほども言いましたが、投資と考えればよいと思います。

これからは、昼間のホールやラウンジなど、時間と空間が無駄になっているところを、有効利用することを考えていく必要があります。そういったマネージメントにより、少しでも利益を伸ばしていければ、次の指定管理者にも選ばれるはずで。

皆さんには、利用者であるとともに、サービスの供給者になっていただきたいと思います。そうでないと、投資にならないし、ホールが一部の音楽や演劇の愛好者たちだけのものだと言われてしまいます。

本当にリリックホールは良いホールです。今年、朝倉摂さんが来られた時に、「こんなところに、何でこんなホールがあるの？すごいじゃない！」と、おっしゃいました。この潜在能力を引き出すために、「いろんなことに使おうよ！いろんなことをやろうよ！」と、思っています。

参加者

市立劇場でも練習していますが、残響時間が短いので劇場用の声に変えている状況です。多目的なホールなので仕方ありませんが、残響を調整できるようにしていただきたいと思えます。

衛アドバイザー

正直言って、市立劇場は使命を終えていると思うので、そこに多額の費用をかけることはどうかと思えます。

参加者

リリックホールを造るときに、みんなで夢を語りました。お金のことや予算のことは考えないで、夢をざっくばらんに語りたと思います。夢を語って、その中の何割かを実現できることが大事なのではないかと思います。

衛アドバイザー

今あるホールの潜在的な能力を引き出すために、お金をかけることは構わないと思います。

参加者

今度、電子オルガンを使うのですが、パイプオルガンに負けないくらい良い音が出ます。オルガンを使う音楽は多く、選曲の幅が広がります。リリックホールには、良いピアノが3台あるので、1台下取りに出して、電子オルガンを購入することはできませんか？

衛アドバイザー

なかなか下取りは厳しいと思いますが、その気持ちも良く解ります。

参加者

リリックホールのコンサートホールは、練習会場としては借り難いと感じます。もっと気軽に借りられるようになれば良いと思います。

また、以前に市内の生徒たちを対象に演奏会をやったことがありますが、もっと、そのような機会が増えれば裾野の拡大に繋がると思います。

船橋アドバイザー

音楽団体がホールの響きを創るということは、とても大事なことで、演奏家がホールの響きを育てていくという発想で考えると、練習からホールを使えるということは理想だと思います。

たくさん情報がある中から、良いものを長岡の子どもたちに触れることができるようにしたいと思います。良いものに小さな時に触れることが、いずれ、地になり、肉となっていくことを考えると、大事にしていきたい事業の一つだと思っています。

衛アドバイザー

市民の方から見ると「何だ？」と感ずることに、行政の縦割りというものがあります。これは大変不合理なことです。例えば、福祉部局と文化部局が手を携えて、高齢者や障害者、子どもたちのために文化を使っていくことは、合理的なことだと思います。私たちや皆さんが仲人役になって、声を大にして一緒に言い続けていくしかありません。

参加者

お二人のアドバイザーの役割とは何なのでしょう？単に、リリックホールをどうするかということより、長岡市における演劇や音楽、さらに芸術や文化のレベルを上げるために、もっと地元に着目したものを広げていくための手法をアドバイスいただくために、お越しいただいたと思っています。

もう少し、お二人の考えや方針といったものが、見えるようにしていただきたいと思っています。そうすれば、もっと市民に広がっていくのではないのでしょうか。

衛アドバイザー

宣伝・広報というより、むしろ財団と市民との関係づくりをしてこなかったと感じています。この関係づくりについては、地道にやっていくしかありません。まず、ホールにきてもらうことが大事だと思います。音楽を聴いたりや演劇を観たりすることだけが、リリックホールの役割だとは思っていません。リリックホールは快適な空間であるべきだし、事実、快適な空間であると思います。しかし、足りないものもたくさんあります。「観る場所」、「聴く場所」だけではなく、「集う場所」であるべきです。そのこと

が、市民との関係を縮めていき、ついでには演劇や音楽の活性化に繋がると思います。

私たちは、演劇・音楽のアドバイザーではありますが、それらを活性化していこうとしたら、施設のあり方にも関わらざるを得ないと思っています。

船橋アドバイザー

リリックホール、市立劇場以外にも、公民館や合併で加わったホールとの関係や、そこに住んでいる人たちとの関係を繋げていかないといけないと思います。今どういう活動が行われているのか、お互いが認識し合い、交流を持つことは十分実現可能です。このように身近なところを大事にできれば、お互い何をやっているか解るシステムは、早いうちに構築できると思います。

参加者

リリックホールは音楽や演劇の好きな人が行く場所であると、まだ思われています。平日などは本当に閑散としていると思います。ホワイエコンサートやワンコインコンサートの気軽なものが定着すれば、底辺が広がっていくと思います。

また、広域圏の中学生を対象に「みるなの座敷」が財団ではなく、市役所の課で何年も継続して行われているようですが、非常に簡素な舞台セットであるなど、少し残念に思っています。また、教育委員会がやっている、小・中学生が対象の公演を見る機会がありますが、その選定について疑問に思うものもあります。そのように財団以外の行っているものについても、是非、衛先生からアドバイスをいただければ、より良いものになると思います。

参加者

合併した地域にも、和島・与板の「良寛」や、越路の「三波春夫」など、たくさんの文化的な財産があります。こういったものも大切にしていきたいと思っています。

船橋アドバイザー

地域全体を見ていくことは大切なことだと思います。それぞれのまちの良いものを共有できる情報交換システムの構築を、音楽を含めそれぞれの文化の方面で意識していきたいと思っています。

参加者

演劇やあそびの国に関わっています。「みんなのホール」といいますが、ここにいらっしゃるメンバーでさえ、交流のない方が半数以上です。まだまだ、人と人の繋がりが薄いと思います。

ここに集まっている私たちが、リリックホールを応援していこうという人たちのネットワークを広げていくことを担っているんだ、という意識を持つことが、今後、広く底辺を広げていくことに繋がるのではないのでしょうか。

衛アドバイザー

英国に行った時にランチコンサートをやっていました。とにかく「人を集めるため、集まるため」には、どうしたら良いかを考え、何とか賑わいをつくりたいと思っています。「集って、出会う場所」のために、ホールやホワイエで何かできればよいと思います。

参加者

今日、青少年の問題など、世の中がすさんできています。こんな時こそ、芸術文化の効果は大きいと思います。お金はもちろんかかりますが、まさに「米百俵の精神」だと思います。

衛アドバイザー

欧米のホールに行くと、ユースオーケストラやユースシアターなどがあって、指導者も地元にあります。長岡にもそのような環境ができるように、土台づくりのお手伝いができれば良いと思っています。